

1998年10月09日 第三種郵便物認可 (毎月3回8の日発行)

2020年4月26日発行 SSKU 増刊通巻 6738号

# SSKU お元気ですか? イリアンソス です。



## 2020年度 春号

Page2 特集 理事長に聞きました～新年度インタビュー～

Page5 活動報告

Page6 職員リレー「仕事で大切にしていること」

Page7 がんばれ！イリアンソス

新年度 特別版

「理事長に聞きました」〜新年度インタビュー〜



社会福祉法人イリアンソス 理事長

## 磯部 光孝

▼新年度が始まりました。

2020年度、春号は「理事長の散歩道」の拡大版として理事長にインタビューをおこないました。

福祉を目指したきっかけや今後の夢など、日頃聞けないお話を聞きました。

▼はじめに

新型コロナウイルスの影響が大きくなっています。利用者やスタッフの命を預かっているものとして最大限の注意を払っていきたいと考えます。

職員一同協力し合いながら、一人ひとりの生活を守っていく所存ですので、今年度も変わらず、ご協力いただけると幸いです。

▼障害福祉への道に

大学時代にわかくさ学園（東久留米市の障害児の通園施設）のボランティアをきっかけにこの道に進みました。

子どもたちが遊ぶ川底の清掃をおこなったり、安全を守るための夜間の見守りをおこなったりする中で、自分のことだけでなく、人のために何かをやるということに面白みを感じて、毎年参加させてもらうようになりました。

そんな中、わかくさ学園の佐々木先生（現在「このみ」代表）からこの業界への誘いの声を掛けてもらいました。

### ▼このみ

本格的に福祉の仕事に携わったのが、児童を対象とする「このみ」でした。その頃の時代背景として、全員就学から数年が経過した時でした。通学の支援をボランティアでおこなっていました。

当初は、収入がないため並行して新聞配達や文房具屋でアルバイトをしながら生計を立てていきました。

徐々に給与ももらえるようになり、このみでは13年間活動をしていきました。通学支援や居宅の支援、家族の支援のニーズは高く、一人ひとりに合わせた支援を大切におこなっていました。

### ▼転機

13年間、このみで勤務した後、一度、福祉から離れた。3年間は建設業

者に就職して現在の、のぞみの家の建設にも携わっていました。

のぞみの家の法人化への動きも、運営委員として参加させていただきました。

### ▼施設長就任

その後、施設長の予定者が交代をすることになり、急遽声がかかりました。再び、福祉の世界へと戻る決意をしました。

私にとって、のぞみの家が初めての成人の施設でした。

支援のこと、運営のことなど、今までに経験した事の無い業務を引き継ぎました。日々、勉強しながら、何とか運営をしていった状況でした。

そんな中、一人での力では難しい局面が多くなり、当時、京都で活動されていた多田さん（現在の活動セ

ンターかなえ施設長）を紹介してもらい、共に、のぞみの家の活動の基礎を作っていきました。

### ▼心に残った言葉

糸賀一雄さんの「この子らを世の光に」この言葉はあまりにも有名ですが、感銘を受けました。

もう一つに、ボランティア時代からお世話になっている、村上氏の言葉で「福祉をやりながら、平和を守っていく。」福祉の仕事を通して人権を考えていたり、平和を守っていたりすることが大切なのだと言えられました。

### ▼経験のなかで

本人・親御さんの想いを叶えたいという気持ちが強くなりました。その中で、色々な経験もしました。組織が大きくなると、個人の判断だけではなく、組

織的に動くことも多くあり、状況によっては支援に線を引きかざるをえない状況もありました。一時期、福祉から離れた理由の一つには、そういった状況の中での考えの差や葛藤もありました。

### ▼変わらないもの

今でも大切にしていこうことは、利用者のニーズを叶えるということです。

一人ひとりの夢や希望を叶えたいという気持ちは変わらないです。





▼壁にぶつかった時には

今までも色々なことがありました。そんな時でも、自分は限界を作らずに、常に成長をしたいと考えています。

一人で抱えずに、周囲には助けしてくれる仲間がいるということも思っています。

困ったことを発信することとは大切で、協力してくれる人も周りにはたくさんいると思っただけで仕事をしています。

自分一人でやっている、やってきた、という感覚はないです。みんなに支えられてきました。

▼職員に期待すること

仕事と共に自分の人生を大切にしたいと思えます。

障害がある人を支えている仕事は、「大変な仕事」とみられがちですが、皆さん



▲ 2003年 入所を祝う会

豊かな人間性があります。

だからこそ、職員一人ひとりの人間性も豊かになってほしいと考えます。

職員には責任があります。最後は法人が責任を持つという姿勢です。

職員一人ひとりの力を安心して発揮してほしいです。失敗してもいいから経験を積んでほしいと思えます。

この仕事は人と人との出会いです。自分の殻に閉じこもって内向きになること

が恐いことでもあります。

独りよがりの支援は、利用者の顔が見えなくなりません。

自分たちの仕事を振り返りながら、いろいろな人とつながることを望んでいます。

そういったことが実現できる法人でありたいと思います。

▼仕事で大事にしていること

情報の流れを気にかけています。組織にとって情報は血液と同じで、法人という一つの生き物の中で、情報がうまく巡っているか常にチェックが必要です。

組織として課題に立ち向かっていかないと成長はありません。

起きたことを責めていくのではなく、組織としてその情報を共有出来ているかのほうが大事かと思えます。

もう一つは、「判断の大切

さ」です。東日本震災の支援に行かせてもらい、一刻と変化する状況の中で判断することの大切さを学びました。その中で、一人

一人が意見を言える環境作りが、とても重要です。

▼夢

障害のある方が生まれ育った地域で、人生がその人らしく送ってもらうことが夢です。

その為にも地域に応援団をたくさん広げていきたいと思えます。



▲ 2018年 入所を祝う会

## 高校生との交流会

1月28日に東京都立東久留米総合高等学校介護コースの学生の方々と、のぞみの家のチャレンジ班の皆さんでおこなわれました。交流会は毎年恒例となり、「今回はどんな学生さんが来るのかなあ」と皆さんワクワク！

前半は、のぞみの家の説明と施設見学。後半は、互いの自己紹介と質問コーナーです。「好きなこと」というお題でひとりずつ発表しました。芸能人や流行りのドラマの話など、共通の話題で盛り上がりました。

チャレンジ班から「将来の夢はなんですか?」と質問が出ると、「看護師」「理学療法士」などの答えがあり、頼もしさを感じました。学生の方からは、「のぞみの家に何年通っていらっしやいますか?」と質問があり、「勤続33年です!」と誇らしげに頷くUさんの表情がとても印象的でした。

最後に、学生の方々の企画による「風船バレー」を楽しみました。



短い時間でしたが、学生の方々の温かくて明るい笑顔に触れ、チャレンジ班の皆さんにとっても、楽しい貴重な時間を過ごす事が出来ました。今回の交流会で交し合った笑顔が学生の方々のこれからの未来に、ほんの少しでもお役に立てれば嬉しいです。

## ぴゅああーと展

なかまの家のニュースは、2月に東久留米市役所の展示スペースでおこなわれた「ぴゅああーと展」に西田宏行さんの陶芸作品が入選したことです。

なかまの家では、月に1度、陶芸の先生に来ていただき、お皿・コップなどを作っています。個性豊かな作品の数々は「なかまの家の作品展」でも、発表していますが、より多くの方に見ていただきたく「ぴゅああーと」にも出展しています。

タイトルが「広い青い空」です。お昼休みに窓際から外を眺めるのが好きな西田さん。青空をイメージして色を入れましました。一つひとつの工程を丁寧に進めていき、イメージを膨らませながら完成させていきます。周囲からお祝いの言葉を多くかけられて、嬉しそうです。



### 【ぴゅああーと展】

多摩六都（東久留米、東村山、清瀬、田無、保谷、小平）に在住、在勤、在学している障害がある人たちの美術作品展です。今年は380点を超える募がありました。



### 生活寮 (共同生活援助)

水俣あつ子 (5年目)

障害者福祉の仕事に携わって22年。イリアンソスでは5年目となりました。私がこの仕事を続けている中で、大切にしていく事・忘れないようにしていることは「一緒に〇〇する。」楽しい事、辛いこと、悲しい事を一緒に感じていたいと思っています。これは、初めて就いた施設の利用者

さんに教わったことです。旅行の付き添いをしている時に、「お前楽しんでるか？」と聞かれました。続けて「付き添っているお前が楽しんでいないのに、楽しませようなんてできないだろ？」と教えてくれました。それから私は利用者さんと同じ目線で感じられるように心掛けています。

# 職員のひまわりとユニバー

vol 5

前回、職員からのリレーです。『仕事で大切にしていること』今回、生活の場の職員と日中通所の場の職員の二人です。



### このみ (放課後等デイサービス)

寺内慧佑(4年目)

仕事で大切に行っていることは『全力で遊ぶ』ということをもットーに子どもたちと過ごしています。全力で野球をしたり、鬼ごっこをしたり、時にはカードゲームと一緒に遊んで遊んでいます。たまに大人気もなく神経衰弱やウノで圧勝することもありません。そんな時に悔しがってもう一度勝負

を挑みに来るという反応を見せてきます。悔しがってもう一度挑みに行く気持ちはとても大切なものではないかと思っています。子どもたちと全力で遊んで子どもたちの心や身体の成長につながってほしいなと思います。子どもたちと楽しくて良い思い出を作っていきたいと思っています。



がんばれ！イリアンソス

「気づき」をくれる皆さんに感謝！

東久留米総合高校 特別非常勤講師

宮秋 道男 氏 (社会福祉士)

「障害がある、ない関係なく、施設に関わっている人全員が家族みたいで、温かい気持ちになりました」。

これを書いたのは、現役の高校生のPさん。私は施設訪問の案内人。一年間を通じて「社会福祉の基礎」(選択科目)を学ぶ一人が、施設の訪問後、私宛に提出する「リアクションペーパー」の中に記した一部分だ。ここで、全体の方の分を紹介できないのは残念だが、冒頭の部分を読んで、そう感じるだろうなあ、その通りだよなあ、まっすぐに受け止めてくれて、と思う。

まあ、「いつものことだ」と言えばそうなんだが、改めて、こんな感じて毎年一度、授業の一環として、のぞみの家に訪問し、若干の時間、交流するようになったのは、いつからだろうか、と考えてみる。10年以上になるかも。当校が東久留米総合高校に生まれ変

わって、社会福祉の選択科目ができてからだから。もっとうとうと、私が案内し、訪問しているはずだろうから。

いずれにしる縁あって、当校で「社会福祉の基礎」を教えることになったわけだが、その際に、心に決めたことがいくつもある。「福祉施設の訪問をする機会をできるだけつくる」ということ、また「当事者や関係者の方にできるだけ来てもらう」ということ等だった。だって、福祉は、社会を単に分析・解釈するだけの静的なものではなく、実践的なものだから、現場に触れて、どう考える、どう変えるのかということが大切なのだから、授業を通じて、現場を考えようとしたのだった。もちろん、知る人ぞ知る私の経歴もあって、市内の福祉施設の関係者を他の人に比べて多く知っているという強みを活かす手はないな、ということもあったが。

だから、私の授業では現在、施設見学は年間3箇所程度、関係者に来ていただくのは3人程度。録画ビデオや新聞記事の切り抜き等も駆使して、授業を構成している。かつこよく「教室に現場を持ってくる」とか言っちゃったり(冷汗)。「のぞみの家」訪問はその中の一つ。いつかの訪問時に、当校の吹奏楽部がのぞみの夏祭りに来るきっかけになったという副産物(ー)もあった。その意味で、訪問の機会をいただき、関係者のご協力に感謝感謝だ。

冒頭に紹介したPさんは、こうも綴る。「職員の方が(指摘した)『障害者をつくっているのは、社会そのもの』という考え方が、もっと浸透すべきだと」と指摘する。また、別のQさんは「障害の有無に関係なく、一人の人間として接することを社会で当たり前にしていくにはどうしたら良いのかを考えさせられた」と。こんなリアクション(感想)が返ってくると嬉しいかぎりだ。やったね！と感じつつ、こんな「気づき」をいつもくれる施設の皆さんの協力で、心からお礼を言わなければならぬ。

# インフォメーション

ご寄付をいただきました(3月末まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございました。  
いただいたご寄付は法人各施設の充実や、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

藤田祐子様

ありがとうございます。

## 社会福祉法人イリアンソス

### ●のぞみの家

東久留米市下里2-7-18  
042-473-9027  
042-473-9036 (F)  
[nozomi@iriansos.or.jp](mailto:nozomi@iriansos.or.jp)

### ●活動センターかなえ

東久留米市南沢2-20-51  
042-452-6405  
042-452-6415 (F)  
[kanae@iriansos.or.jp](mailto:kanae@iriansos.or.jp)

### ●なかまの家

東久留米市中央町2-1-47  
042-472-7130  
042-444-3722 (F)  
[nakama@iriansos.or.jp](mailto:nakama@iriansos.or.jp)

### ●生活寮「うみ」「そら」

東久留米市下里4-2-7  
042-476-3400 (F兼)  
[sora@iriansos.or.jp](mailto:sora@iriansos.or.jp)

### ●生活寮「にじ」「かぜ」

東久留米市下里5-10-10  
042-420-9943  
[kaze@iriansos.or.jp](mailto:kaze@iriansos.or.jp)

### ●このみ

東久留米市幸町3-8-23  
042-473-9667

## ～職員のつぶやき～

当たり前のことが、そうではなくなった時に初めてその有難さや大切さに気付きます。  
改めて、日々の支援を振り返り明るい未来へ活かしていきたいです。

のぞみの家 吉田遊佑

## 《発行》

特定非営利法人障害者団体定期刊行物協会〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17 ヴェルドゥーラ祖師谷 102号室

Tel 03-6277-9611/Fax 03-6277-9555

## 《企画、編集》

社会福祉法人 イリアンソス

〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18

Tel 042-473-9027/Fax 042-473-9036

## 《編集委員会》

磯部光孝・多田由美・吉田遊佑・福田恵

花形優・高橋友紀・松森大輔・廣智章・寺内慧佑

※ホームページからもご覧いただけます。

イリアンソス



定価100円

## 表紙の写真

イリアンソスの各事業所の外観